



加高だより

令和元年8月

鹿児島県立加治木高等学校

総合版（表面）

国公立大学に多数合格

平成31年度入試の国公立大学合格者は184人（過年度含む。以下同じ）、私立大学はのべ264人、短期大学65人、専修学校等23人、大学校3人、就職4人となっています。北海道大、筑波大、京都大、大阪大、神戸大、九州大、慶應義塾大、早稲田大、中央大、明治大、同志社大などの難関大学にも多数合格しました。また、鹿児島大学医学部医学科には2人が合格しました。

合格状況の詳細は、加治木高校ホームページを御覧ください

(<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/kajiki/>)。



小川翔大さん

令和元年度の生徒会本部役員が決定し、2年生の小川翔大さんが生徒会長に、同じ2年生の崎山凌太郎さんが副会長にそれぞれ選出されました。今回は小川さんに、これからの意気込みを聞きました。

○ なぜ生徒会長を目指そうと思ったのですか。

1年生の頃から、生徒会役員として様々な活動を行ってきました。そこで見つけた加治木高校の問題点を皆と協力しながら改善しようと思ったのがきっかけです。

○ 本校の課題とは何ですか。

生徒一人ひとりの主体性が今一つで、受け身の体勢で学校生活を送っているように見える点です。

○ これから、学校をどのように良くしていきたいですか。

「意見箱」の充実を図るとともに、定期的に「生徒会新聞」を発行していきたいと思っています。それによって、一人ひとりに主体的に動いてもらい、皆で加治木高校をより良くしていきたいです。

○ 加治木高校を希望している中学生にメッセージをお願いします。

おそらく、加治木高校での生活は皆さんが想像しているより大変です。でも、それ以上に充実しています。皆さんには、小さなものでもよいから、目標を常にもち続けてほしいです。それは絶対に高校生活の中での活力になってくれると思います。最後に皆さん、受験勉強がんばってください。

常に目標をもち続けて

同窓会の支援事業



国内派遣のメンバー

加治木高校では、同窓会（龍門会）の支援によって、平成29年度から10年間、国内・海外派遣事業が行われます。

平成30年度の国内派遣事業は、8月1日から3日まで実施されました。2年生（当時）の窪田蓮さんから5人は、関東でワークショップを行ったり、農林水産省やテレビ局を訪問したりしました。

海外派遣事業は、3月26日～4月6日の12日間、アメリカサンフランシスコ周辺で実施され、10人が

海外派遣のメンバー



参加しました。

メンバーの一人である竹寄凜さん（2年生・当時）は、4月20日に本校体育館で行われた派

遣事業報告会の席上で「アメリカ人は自分のことを優先する。そのことがアメリカ人の積極的な性格につながるのだろう。一方、日本人は人のことを気にする。それは消極的な性格につながるものの、そのおかげで、日本人は他者のことを気遣える人が多いのだと感じた。日本人は優しい、アメリカ人は積極性があると評価されているが、どちらもマイナス面、プラス面ともにある。どちらが優れているなどと安易に比較するのではなく、互いの長所を尊重し、認め合うことが大切なのではないか」と述べました。

行事の詳細、学校生活の様子は、加治木高校ブログをご覧ください。随時更新中です。

(<http://kajiki-h.seesaa.net/>)